

環境と社会の新展開

地球環境変化の人的側面(HD)分科会

[話の内容]

- IHDPと、Future Earthへの経緯
- 文理融合研究の推進
- HD理解のための視点、視野、視座
- SDGs/FEの達成への貢献
- 社会の変革を加速するCOVID-19

近藤昭彦 (千葉大学CEReS)

スライドに出てくる背景写真はすべて旧計画的避難区域。何事もなさそうな、のどかな風景の背後に問題の人的側面が隠されている。それは新型コロナ禍とも同じである。

IHDP(International Human Dimensions Programme) 国際地球環境変化の人的側面(HD)研究計画

- ICSU(国際科学会議)、ISSC(国際社会科学協議会)、UNU(国連大学)の支援を受け、人文社会科学の側面から地球環境研究を推進
⇒文系・理系の連携を推進する仕組みを提供すること (1996, Geneva Symposium)
- 2015年にIHDPはFuture Earthに統合・・・学術会議HD分科会に継承
- 2018年にICSUとISSCはISC(国際学術会議)に統合 ⇒文系と理系の統合

IHDPのコアプロジェクト

- **ESG** (Earth System Governance, 地球システム管理計画)
- **GECHS** (Global Env. Change and Human Sec., 地球環境変化と人類安全保障計画)
- **GLP** (Global Land Project, 全球陸域プロジェクト)
- **IT** (Industrial Transformation, 産業転換計画)
- **LOICZ** (Land-Ocean Interactions in Coastal Zones, 沿岸域における陸域・海域相互作用計画)
- **UGEC** (Urbanization and Global Environmental Change, 都市化と地球環境変化計画)
- **IHOPE** (Integrated History of People on Earth, 統合人類史計画)
- **IRG** (Integrated Risk Governance Project, 統合リスク管理計画)
- **KLASICA** (International Alliance on Knowledge, Learning and Societal Change, 知識・学習と社会変革計画) ⇒ KLaSiCa小委員会
- **GCP, GWSP, GECHH, GECAGS, ……**

(氷見山、2021の資料による)

IHDPとIGBPからFuture Earthが誕生

Future EarthのGlobal Research Projects(2021.1)

●赤字がIHDPから移行したもの

AIMES --- Analysis, Integration and Modelling of the Earth System

bioDISCOVERY

biogenesis

CCAFS --- Climate Change, Agriculture and Food Security

EcoSERVICE

ESG --- Earth System Governance

Future Earth Coasts (formerly LOICZ)

GCP --- Global Carbon Project

GECHH --- Global Environmental Change and Human Health

GLP --- Global Land Programme ⇒GLP小委員会として対応

GMBA --- Global Mountain Biodiversity Assessment

IGAC --- International Global Atmospheric Assessment

IHOPE --- Integrated History and Future of People on Earth

iLEAPS --- Integrated Land Ecosystem-Atmosphere Process Study

IMBeR --- Integrated Marine Biosphere Research (formerly IMBER)

IRG --- Integrated Risk Governance Project

MAIRS-FE --- Monsoon Asia Integrated Research for Sustainability-Future Earth

(氷見山、2021の資料による)

山木屋地区中心部。雑草に覆われた水田、畑、．．．。

人間的側面(HD)とは何か 視座・視点・視野の違い

福一事故による放射性物質の拡散

科学の言葉

降水による
放射性物質の
湿性沈着

福島盆地

阿武隈山地
飯館、山木屋

2011年3月12日

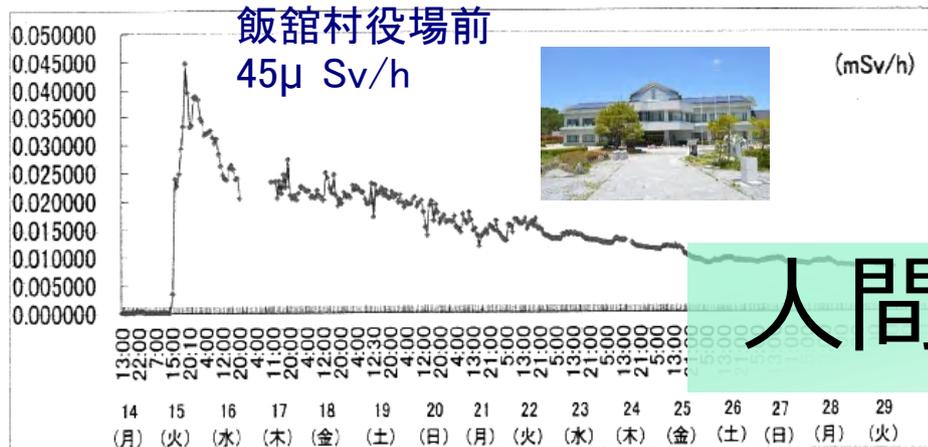
2011年3月14日

2011年3月16日

東北太平洋沖地震(311)直後の阿武隈山地の衛星画像(ALOS大地1号)

3月15日の午後、阿武隈山地北部の方々は
津波被災地域に対する支援者から、避難者へ

15日午後から降り出した雨は、夕
方になると雪となり、阿武隈を覆っ
た。その雪は...



人間的側面



外

同じ事象

内

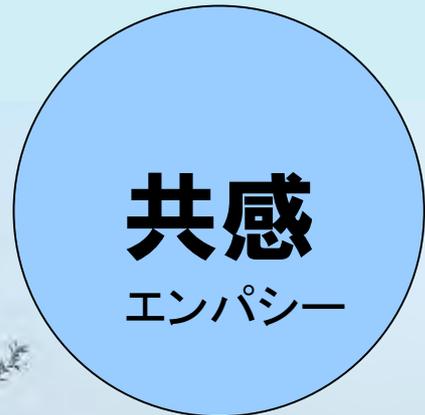
視座-どんな立場で問題に取り組むのか

ステークホルダーと科学者:問題の解決の達成を共有するために

別のステークホルダーの枠組み

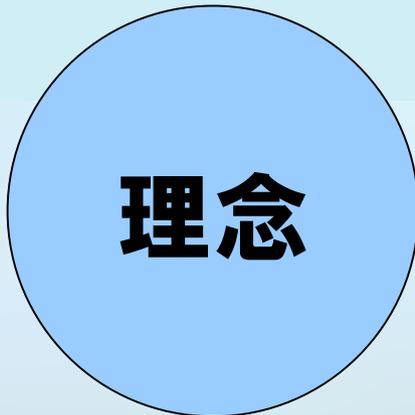
ステークホルダーの枠組み

←境界を越える:人間的側面(HD)の理解



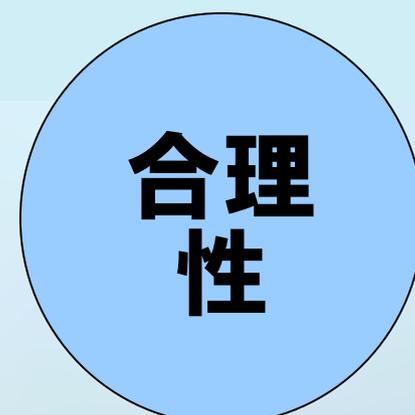
顔の見える人と対峙し、問題を“わがこと化”すること

共感基準



めざす社会のあり方を共有あるいは尊重すること

原則基準



科学的合理性に基づいて行動を決めること

有用基準

(作田、1993;鳥越、2004)

ステークホルダーと科学者の協働の枠組み
…ひとつではない

帰還困難区域に指定された飯舘村長泥の桜(2012年5月6日)

ステークホルダーの階層性と視座・視点・視野

世界観

ローカル

Pragmatic

ステークホルダー・視座



住民

価値・哲学

個別性

(農村)

リージョナル



地域

個別性

(都市)

グローバル

(ユニバーサル)

Normative



国家
世界

普遍性

階層間の分析はないか

階層間をどうつなぐか

HDを配慮： 世界観・社会観・人間観の理解

A

世界は、相互作用する多数の素過程から構成されており、全体としてシステムとして機能する。



未来を予測し、より良い未来に向かう(バックキャスト)

地球システムを良好な状況に導くための、普遍的な方法はある。

グローバルな環境問題 (A)
≡ 脳内環境問題 (B)



ローカルな環境問題 (A)
≡ リアルな環境問題 (B)

B

世界は、相互作用する多数の地域から構成されており、グローバルはフレームとして捉えられる。



現在から未来を展望する。

地域が良くなることで、地域の集合体としての世界が良くなる。

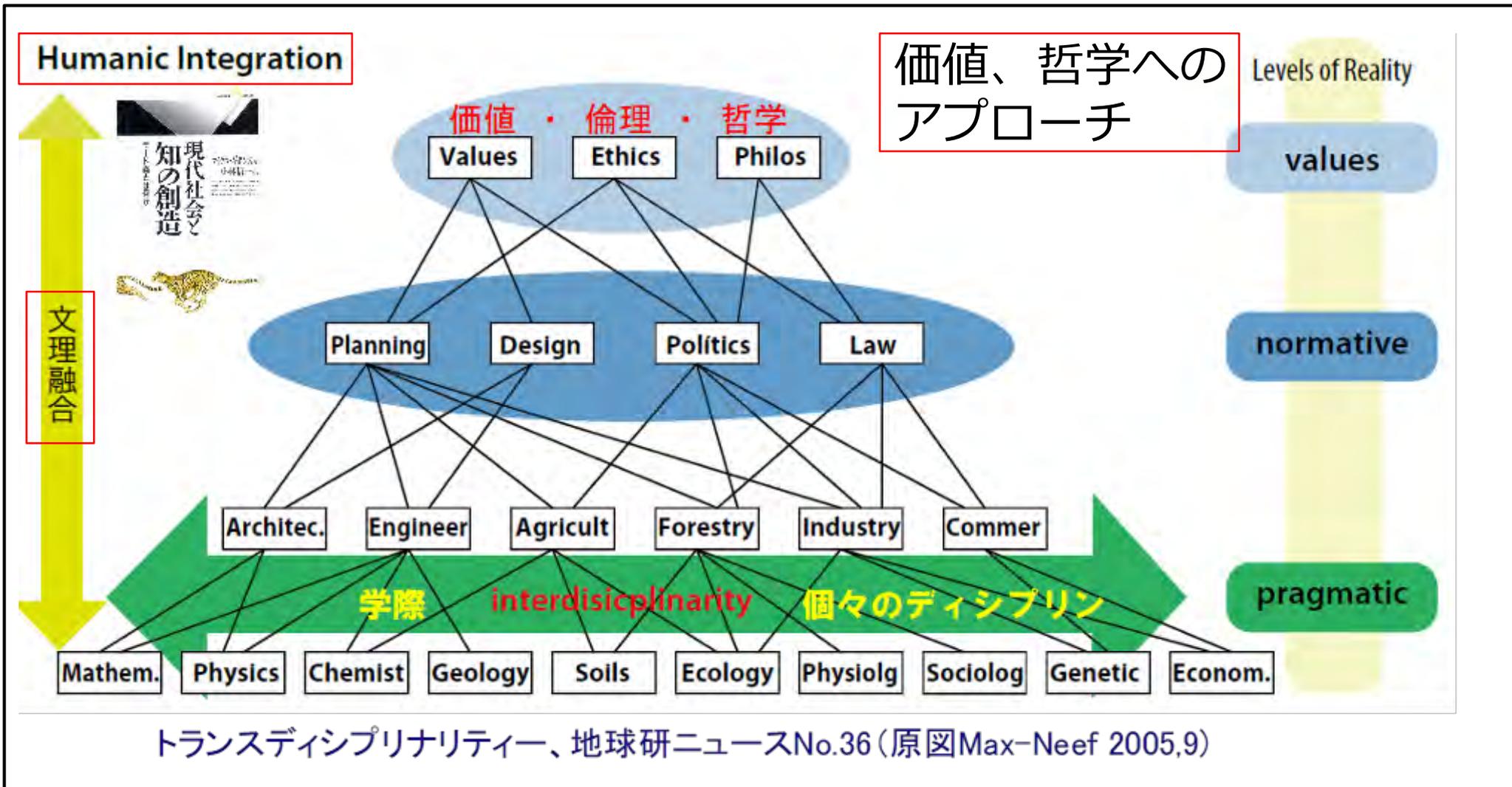
SDGs

文理融合の必要性

注) 脳内環境問題 関礼子編「環境の社会学」、有斐閣アルマ、2009.

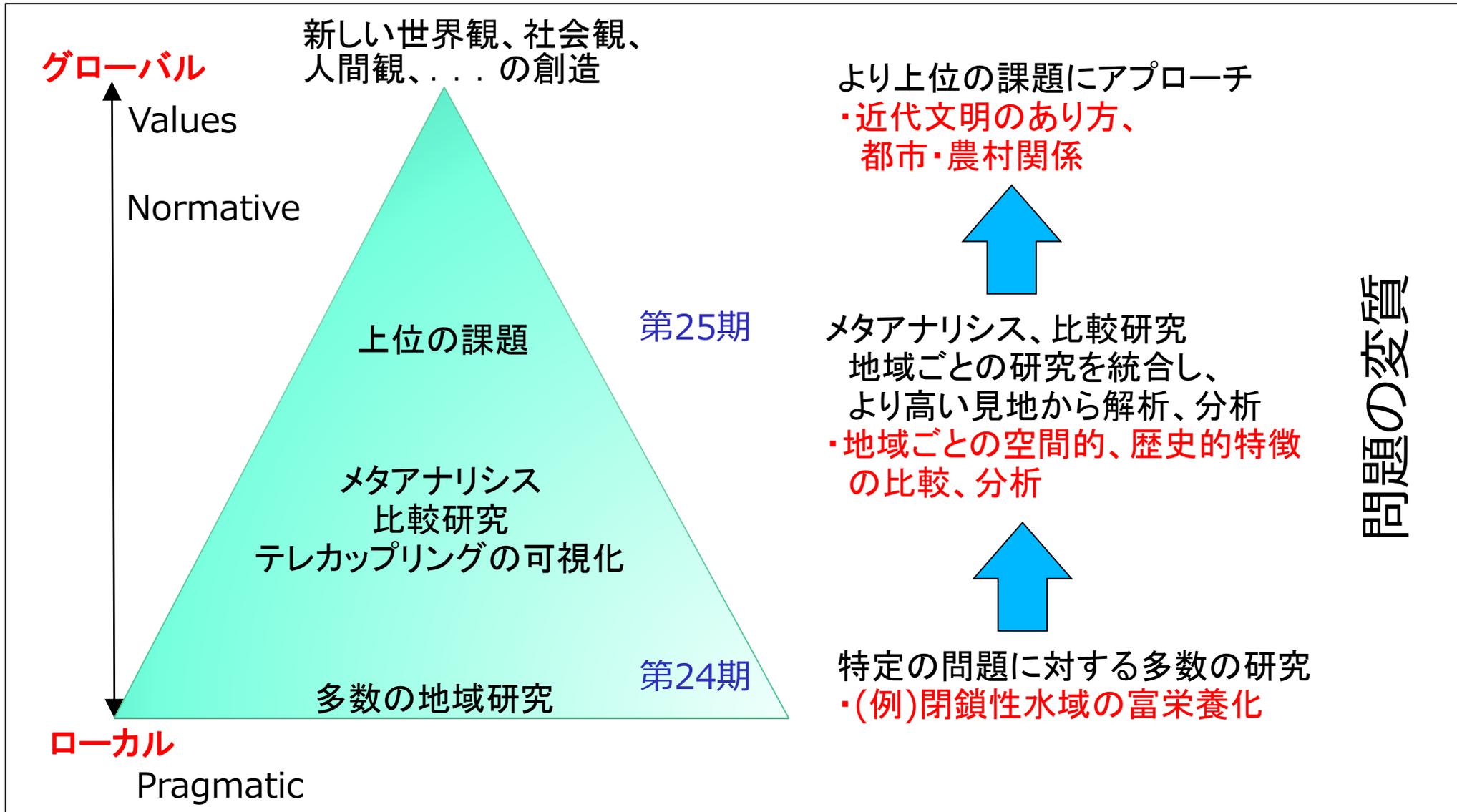
文理融合への道筋：トランスディシプリナリティー

- Future Earthの方法論
- 学際軸と文理融合軸
- 文理融合を実現 ⇒ 個別性と普遍性の関係



ローカルとグローバル、個別性と普遍性の関係

- ・ 普遍性探求型科学と関係性探求型科学 (大熊孝による)
- ・ ローカル、それともグローバル
- ・ 地域における小さな研究を統合し、グローバルへ
- ・ 地域の経験を集めて、メタ解析し、より上位の課題へ



新しい世界観、社会観、
人間観、...の創造

グローバル

Values

Normative

上位の課題

第25期

より上位の課題にアプローチ

- ・ 近代文明のあり方、
都市・農村関係



- メタアナリシス、比較研究
地域ごとの研究を統合し、
より高い見地から解析、分析
- ・ 地域ごとの空間的、歴史的特徴
の比較、分析



特定の問題に対する多数の研究

- ・ (例)閉鎖性水域の富栄養化

多数の地域研究

第24期

ローカル

Pragmatic

問題の変質